

pL^AT_EX ニュース 第3号

1998年2月発行

作成者： 中野 賢 (<ken-na at ascii.co.jp>) & 富樫 秀昭 (<hideak-t at ascii.co.jp>)

1 この文書について

この文書は、pL^AT_EX 2_ε<1998/02/01>版について、pL^AT_EX 2_ε<1997/07/02>版からの更新箇所をまとめたものです。

このpL^AT_EX 2_εは、L^AT_EX<1997/12/01>版に対応しています。L^AT_EX レベルでの更新箇所は、L^AT_EX に付属の ltnews ファイルを参照してください。

2 パッチの取り込み

plpatch.ltx で提供していた、つぎの修正を取り込みました。

- 小文字のファイル名のフォント定義ファイル(.fd ファイル)をロードするための修正。
- \ command の直前の空白を無視するための修正。

3 クラスファイルの修正

日本語クラスファイル(1.1e)に対して、以下の変更を加えました。

- 縦組クラスで書体の大きさを変更したとき、ベースラインがずれる(1.1f)。
- oneside オプションを指定したとき、section レベルの文字列が柱に出力されない(1.1g)。
- landscape オプション指定時のレイアウトパラメータの修正(1.1h)。
- jreport, jbook クラスで、oneside オプションを指定し、ページスタイルを bothstyle にすると、コンパイルエラーになる(1.1i)。

4 フォーマットファイル作成時の注意

現在の pT_EX (p2.1.5) では、8 ビットコードの連続を 16 ビットコードと認識してしまう場合があります。そのため、フランス語やキリル文字などの 8 ビットコードが連続するハイフンパターンはまず使えません。例えば cmcyralt パッケージでは、途中でつぎのようなエラーになります。

```
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/contrib/
other/cmcyralt/rhyphen.tex Russian hyphen
ation
! Bad \patterns.
1.107 . え
                2
?
```

このときは、“?” のプロンプトに対して “x” で終了してください。残念ながら、このハイフンパターンを pT_EX で利用することはできません。

pL^AT_EX 2_ε では \$TEXMF/tex/platex/base/ディレクトリに hyphen.cfg を用意して、不用意に他のハイフンパターンを読み込まないようにしてあります。

5 その他

pT_EX や pL^AT_EX 2_ε に関する最新情報は、pT_EX ホームページ

<http://www.ascii.co.jp/pb/ptex>

より、入手することができます。

バグ報告やお問い合わせなどは、電子メールで

www-ptex@ascii.co.jp

までお願いします。